萬鉄五郎記念美術館
木の間通信
KONOMA
東和エリア
美術ニュース
no.15
2014.
11月号

開館30周年記念　花巻市共同企画展「ぐるっと花巻再発見！」

「晴山 英」展 ―湧きあがる色彩 未知なるフォルム―

2014年11月29日（土）～ 2015年2月1日（日）　●会場：萬鉄五郎記念美術館

●休館日
月曜日（祝日の場合はその翌日）
●開館時間
8:30 ～ 17:00（入館は16:30まで）
●入館料
一般500(450) 円
高校・大学生300(250) 円
小・中学生200(150) 円
＊（　）内20名以上の団体料金

1.《今日》1990年／油彩・画布
2.《作品93》1982年／油彩・画布
3.《ウルムチ23時》1988年頃／油彩・画布

花巻市東和町出身の両親のもと盛岡市に生まれた晴山 英（はれやま えい 1924-2011）は、岩手を代表する女流画家です。

晴山は、一貫して自己の奥深くから湧き上がるイメージを喚起し、未知なる世界を形にしてきました。そこでは、混沌と調和を繰り返しながらうごめく不思議なフォルムと湧きあがる色彩によって、心象風景と呼ぶにふさわしい超現実性を帯びた絵画世界が広がっています。本展では、2011年に亡くなった晴山の初の遺作展として、生涯にわたる作品を紹介し彼女の表現性のありかを探ります。

Logo design / 杉本吉武

開館30周年記念

11ぴきのねこと馬場のぼるの世界展

好評開催中～11月24日（月・祝）　●会場：萬鉄五郎記念美術館

漫画家・絵本作家として活躍した馬場のぼるの、人気シリーズ『11ぴきのねこ』をはじめとする絵本や漫画の原画、印刷原稿に、幼少期のスケッチなどの資料をあわせて紹介します。

●休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）

●開館時間：8:30～17:00（入館は16:30まで）

●入館料：一般700（650）円、高校・大学生400（350）円、小・中学生250（200）円　＊（　）内20名以上の団体料金

《11ぴきのねことぶた》／こぐま社　1976年刊／印刷原稿（特色刷り校正用リトグラフ）

街かど美術館2014 アート＠つちざわ〈土澤〉

好評開催中　～11月9日（日）9:00～16:00　《入場無料》

52名の現代美術家（絵画・彫刻・インスタレーション・パフォーマンスなど）の作品を展示します。

●会場　花巻市東和町土沢地区～東晴山地区～谷内地区～田瀬地区
42会場（商店街の店舗、空き地、倉庫、神社、農村空間、生活空間など）

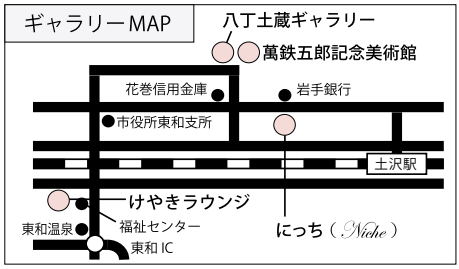
●問合せ　街かど美術館実行委員会事務局
花巻市東和町土沢８-95「賑わいステーション」内　電話FAX／0198-29-5959
http://arttsuchizawa.com/　http://arttsuchizawa.blog.fc2.com/

萬鉄五郎記念美術館 休館のおしらせ

萬鉄五郎記念美術館は、平成27年２月２日～３月末まで、館内改装工事のため全面休館いたします。何卒ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

美術の街「土沢」ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。



萬鉄五郎記念美術館

八丁土蔵ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135
萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30　月曜休（祝日の場合は翌日）　入場無料

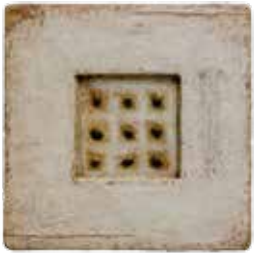
iwate コンテンポラリーアート

新田コージ 展

—原初の記憶—

2014年 11月29日（土）～ 2015年 2月1日（日）

花巻在住の画家による静謐な世界



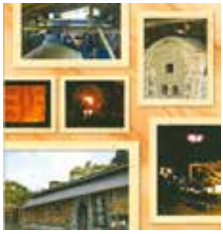
Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30～19:00（最終日は16:00まで）入場無料

第3回 玄平窯の仲間たち 展

11月2日（日）～
11月30日（日）

例年大好評。小通の新名所。迫力ある仲間たちの新作。



第13回けやきの会 チャリティ小品 展

12月1日（月）～12月27日（土）

けやき運動の原点。歳末恒例の温まる小品を廉価で提供。

にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115
こっぽら土澤1階
11:00～17:00
火曜定休　入場無料

下坂久美子 展

11月19日（水）～
12月1日（月）

思い出の着物からのリフォーム他、秋冬編。布から命があふれ出る作品の数々。

喫茶「八丁土蔵」

萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。　営業時間：10:00 ～ 16:00（lo.15:30）

丁字路

館長コラム

「トルソ」の美しさ

私は彫刻の「トルソ」が好きで、その深遠な造形美に魅せられる。トルソとはイタリア語で、頭部や手足を欠いた「胴体」だけの彫刻をいう。

わが国が世界に誇る肖像彫刻『鑑真像』を有する奈良の唐招提寺には、彫刻のもうひとつの傑作である仏像のトルソが収蔵されている。その蔵は奈良時代から平安初期にかけての仏像で「如来形立像」と名付けられているが、「唐招提寺のトルソー」として親しまれている。人間の最も表情豊かな顔、そして手、足のない胴体だけで一級の彫刻の持つ造形美と力強さがある。見る者の内部に無限に語りかけてくる「存在」することの「やすらぎ」がある。

このような破損された像の美しさに光が当てられるようになったのは、彫刻に対する新しい考え方が西欧から日本に入ってからである。

古代ギリシャからローマに引き継がれた美しい大理石の彫刻群が、ローマで4世紀にキリスト教が国教となった途端に、その他の宗教は邪教として禁止され、多神教のものが大量に破壊された。美しいギリシャ、ローマの神々の神殿も壊され、ローマのテベレ河に投げ捨てられ、一部は住宅の建築の材料として利用された。宗教による史上最大級の芸術破壊である。ルーブル美術館の『ミロのヴィーナス』や『サモトラケのニケ』などが腕や首がないのは、そのことを物語る。もっともミロのヴィーナスは、結果として腕がない方がむしろ美しい、あれば過剰になりすぎ内在する美が損なわれただろう。

その後、キリスト教の支配した中世の時代が約1千年続き、ようやく15世紀ルネサンスの時代なって異教徒の芸術にも目が向けられるようになった。神の規制の強い世界から人間発見の時代になった。そしてルネサンス期に古代ギリシャ、ローマの遺跡の発掘が盛んに行われるようになり、ラファエロは1515年に古代遺跡の監督官に任命されている。

発掘されたトルソの美的価値を認めたのがミケランジェロであった。残欠の像にむしろ内在する彫刻の美があることを悟った。その300年後、近代彫刻の出発点となるロダンが「トルソ」を自律的作品として制作した。運動を連続性のうちに捉えた『歩く人』のトルソである。ロダンがトルソを作品として制作した初めてで、その後マイヨール、高田博厚などの彫刻家が多くのすぐれたトルソを制作するようになった。

萬鉄五郎記念美術館長　中村光紀

右／《如来形立像》唐招提寺蔵　国重要文化財
左／ロダン《歩く人》石膏　1877年　ロダン美術館蔵

萬鉄五郎記念美術館　岩手県花巻市東和町土沢 5-135　Tel.0198-42-4402　8:30am. ～ 5:00pm.
yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp　http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html　月曜休館（祝日の場合その翌日）

発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明